



教員の持つ力

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

NHK for School 公式アプリ 利用シーンはいろいろ！

- ✓先生が選んだ動画を授業で見る
- ✓調べ学習で映像百科事典として活用する
- ✓宿題のヒントを探して動画を見る
- ✓好奇心のおもむくまま動画を見る

「NHK for School」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、2011年度より使用されている日本放送協会（NHK）の学校向けコンテンツの総称です。様々な教科等の指導場面を動画で視聴することができて、とても重宝されています。本校の端末にも、このアプリケーションが入っていて、私もたまに視聴して、授業参観のフィードバックのネタにしたりしています。

コロナ禍が続き、GIGAスクール構想の実現に向け、全て子どもたちに端末が行き渡るようになって以来、「NHK for School」のような「勉強系」動画の人気が高まっています。ネット環境が整っていれば、いつでもどこでも視聴できること、どの動画も発信者が明朗快活に、かつコンパクトに説明していることなどが視聴者にとって魅力となっているようです。

「勉強系」動画や教育関連企業が作製した学習コンテンツの評価が高まる一方、教職に対しては「過酷な職場環境」のイメージが定着し、教職志願者は激減、自治体同士による「教員獲得競争」が激化しています。2021年度に実施された全国の公立小学校の教員採用試験の競争倍率は、2.5倍（北海道は2.3倍）となり、過去最低になったとの報道がありました。このような状況が続くと、学校での授業は個々の教員が行わずに、指導法のプロが行う授業動画か学習コンテンツを全面的に使用すべきであり、それにより教員の負担は軽減し、その先に待っているのは、教員数の大幅削減という厳しい未来かもしれません。果たして授業動画や学習コンテンツは万能なのでしょうか。

先日、ある学年の国語の授業を参観しました。本時の課題は、「物語の続きを書こう」でした。子どもたちは、オリジナルの物語を続きを書くことに没頭しています。書き終えた子どもは、教員に見せに行きます。教員はその子どもの書いた物語を読み、「〇〇さんの書いた物語に感動して涙が出てきたよ」と返します。その子どもは、満面の笑みを浮かべて自席に戻っていきます。ある子どもには、「このところ、もっと詳しくしてみたらどうかな」と伝えます。その子どもは「そうだね、先生」と言って、自席に戻り、没頭して書くことを再開します。その教室は「学びの空気」に包まれ、その中で、子どもたちが成長していく様子が見られました。



授業参観をしていると感じることがあります。本校の教員は、子どもたちの表情や態度から当該の子ども心の状態を推測、考慮して日々の指導を行っている、ということです。これは、現段階において、授業動画や学習コンテンツだけを活用した学習では絶対にできない、複雑で貴重な「人

としての力」だということです。多くの学者や研究者が、近未来において「なくなる仕事」や「残る仕事」を発表しています。「残る仕事」の中に、「小学校教員」が示されていることを、本校の教員の姿から理解することができます。